

マーケット概況（2024年10月）

10月の債券相場は、10年375回債が前月末比変わらずの0.855%で取引を開始した後、2日に中東情勢をめぐる地政学的リスクの高まりから、0.815%まで利回りが低下した。しかし、4日発表の米国雇用統計をはじめ米国で市場予想を上回る経済指標の発表が相次いだことから年内大幅利下げ観測が後退し、本邦債券市場も下落に転じた。7日に行われた国債買入オペでは中期債を中心に需給の緩みが意識される内容となり、30年債、5年債入札を無難に通過したものの債券相場は軟調地合いが続いた。さらに、翌月に行われる米国大統領選挙に絡んだ財政悪化懸念やインフレ再燃への警戒を背景に、米国10年債が7月以来の水準まで売られると本邦債券市場も下げ幅を拡大し、新発10年376回債は22日に0.985%と8月2日以来となる水準まで利回りが上昇した。その後、衆議院選挙を前に与党不利との見方が強まったことで、財政拡張・国債増発への懸念から超長期債に売りが膨らんだ。27日に行われた総選挙で与党が過半数割れの結果となると月末にかけてはさらに売られ、31日に40年17回債は約16年ぶりの水準となる2.555%まで利回りが上昇した。一方、10年376回債は下値では底堅く徐々に下げ幅を縮小し、結局0.935%で取引を終えた。

<短国市場>

10月の短国市場は発行減額と積極的な担保玉確保によって、しっかりとした応札が続き、4日の3M1260回債入札で最高落札利回り0.02%台、9日の6M1261回債入札は最高落札利回り0.08%台と、共に前対比で金利低下となった。一方で17日の1Y1263回債入札では、最高落札利回り0.29%台と前回債よりも金利上昇し、セカンダリーでも買いが弱く伸び悩んだ。18日の3M1264回債、25日の3M1265回債入札では共に最高落札利回り0.0074%まで金利低下したが、月末にかけては在庫調整の売りが入り、0.025%まで取引された。1Y金利も0.320%まで金利上昇する等、全体的に需給環境に変化の兆しが見えた。

<一般債市場>

10月の定例地方債は、5年債と10年債がともに前月対比横ばいの国債カーブ対比+10bpで条件決定した。10年政保債は、前月対比横ばいの国債カーブ対比+8bpの条件決定となり、政保債・地方債スプレッドは前月比横ばいの2bpが継続した。18日の社債買入オペは来年中のオペ終了に向けて段階的な減額や今後の利上げ余地への警戒からオペ落札金利の高止まり傾向が継続しており、過去最高を更新した。10月の事業債はNTTファイナンス計2,850億円を筆頭に大型起債が寄与し、前年同月比23%増の1兆4,122億円の起債となった。

◎ 主要債券月間四本値

銘柄	始値	高値	安値	最終出来値
#376	0.870(3日)	0.855(3日)	0.985(22日)	0.935(31日)
#375	0.855(1日)	0.815(2日)	0.940(18日)	0.895(31日)
#365	0.585(2日)	0.565(2日)	0.715(22日)	0.665(31日)
#172-#173(5Y)	0.495(1日)	0.475(2日)	0.600(18日)	0.580(31日)
#189-#190(20Y)	1.660(1日)	1.640(2日)	1.815(24日)	1.780(31日)
#1255-#1261 TDB(6M)	0.075(9日)	0.075(9日)	0.125(31日)	0.125(31日)
#1259-#1265 TDB(3M)	0.010(4日)	0.000(4日)	0.025(29日)	0.020(30日)